

1. 水稲「にこまる」、「アケボノ」の湛水直播栽培における播種晩限と作業時期の目安

[要約]

「にこまる」、「アケボノ」の湛水直播栽培では、収量及び外観品質の低下を防ぐために、6月中旬までに播種する。良好な苗立ちを得るために重要な播種後の落水管理は、再入水が可能な1～2葉期となる播種約10日後まで必要である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

育苗の省略や移植時期の労力分散等を目的として、稲作経営の一部に直播栽培を導入する際、県南部で古くから広く普及している乾田直播栽培に加え、近年全国的に取組が増えている湛水直播栽培も、活用が期待される技術である。そこで、県南部における主要品種「アケボノ」と、作付が増加している「にこまる」について、湛水直播栽培が導入できる作期と、その作期において必要となる栽培管理作業の時期を明らかにし、当技術の円滑な導入に資する。

[成果の内容・特徴]

1. 「にこまる」、「アケボノ」ともに、6月中旬播種と比べ、6月下旬播種で未熟粒が大きく増加し、整粒歩合が低下する傾向がみられ（図1）、検査等級が低下する（表1）。
2. いずれの品種も、播種期が遅くなるにつれて収量が漸減する傾向がみられる（図1）。
3. いずれの品種も6月上旬、中旬の播種期において、播種後約10日までを落水管理とすることで良好な苗立ちが得られ、2回目の除草剤散布が可能となる1葉期～2葉期となる（表2）。
4. 「アケボノ」の湛水直播栽培の6月中旬播種では、幼穂形成期、出穂期、成熟期が6月下旬移植栽培とほぼ同時期となり、同様の栽培管理が可能である（表2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 県南部で一般的な水利条件を考慮し、6月上旬以降の播種を想定した。
2. 試験は鉄コーティング種子を用いて行った。

[具体的データ]

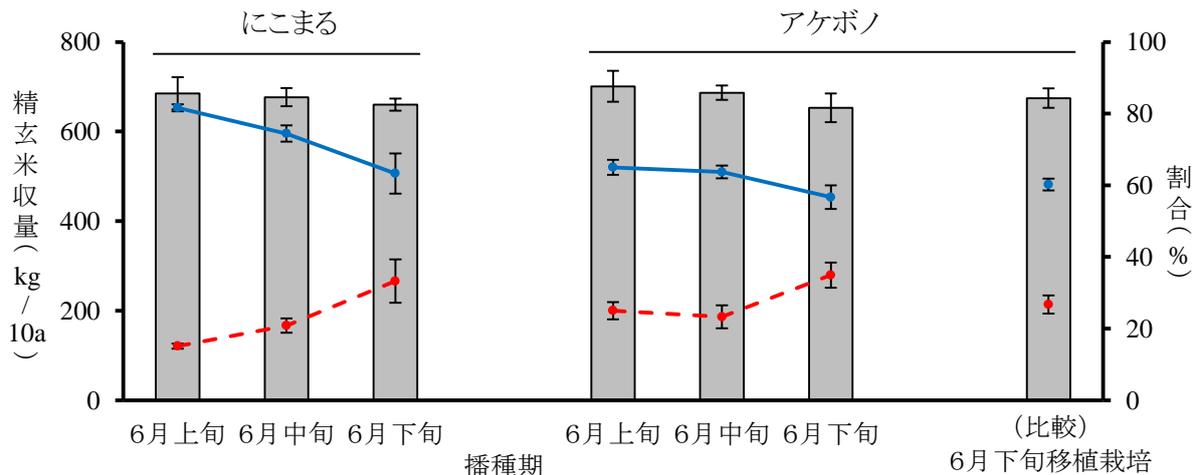


図1 湛水直播栽培(鉄コーティング)の播種期が収量、整粒割合、未熟粒割合に及ぼした影響
 注) 施肥窒素量8kg/10a、条間30cm×株間20~21cmで点播(移植)した、2014~2015年の平均値
 〇 収量 —●— 整粒 -●- 未熟粒 図中の縦棒線は標準誤差を示す

表1 湛水直播栽培(鉄コーティング)における播種期と検査等級^zとの関係(2015年)

品種	播種期	検査等級	格下げ理由
にこまる	6月上旬	1等下	
	6月中旬	1等下	
	6月下旬	2等下	青未熟
アケボノ	6月上旬	2等上	腹白
	6月中旬	2等上	腹白
	6月下旬	2等下	腹白・青未熟

^z 全農による検査

表2 湛水直播栽培における生育の進展と主要な作業^zの時期(2014~2015年の平均値)

品種	栽培法	播種期	水管理(自然落水)				幼穂形成期	出穂期	成熟期
			出芽始期	1葉期	2葉期	3葉期			
にこまる	湛水直播栽培(鉄コーティング)	6/5	6/9	6/15	6/17	6/21	8/10	9/3	10/25
		6/16	6/19	6/25	6/27	7/1	8/15	9/8	11/4
アケボノ	湛水直播栽培(鉄コーティング)	6/5	6/9	6/14	6/16	6/20	8/15	9/7	10/31
		6/16	6/19	6/24	6/26	7/1	8/19	9/12	11/8
	移植栽培	6/5	—	—	—	6/27(移植期)	8/18	9/12	11/7

^z 栽培圃場における主要な作業を示す(この他、病害虫防除を必要に応じて行う)

[その他]

研究課題名：大規模経営に対応した効率的稲作システムの確立

予算区分：県単

研究期間：2013~2015年度

研究担当者：渡邊丈洋